

成長と交流のステップ — 魅力あふれる地域づくり・学校づくり —

これからの学校は多様な社会環境への対応に加え、**地域とのつながり**がこれまで以上に重要と考えます。

魅力的な景観と高低差を活かした『**ステップひろば**』で、学校と地域をつなぎ生徒とまちがともに成長しつづける学校をつくりまします。



図1 『ステップひろば』の要となる屋根のある屋外広場『ございんテラス』

活動が連続し、まちにつながる「ステップひろば」
高低差を生かした特徴あるステップ状の5つのひろばがつながります。
ひろばでの活動はまちづくりにつながり、生徒とまちがともに成長する場となり、これからの蔵王を担う人材を育てます。

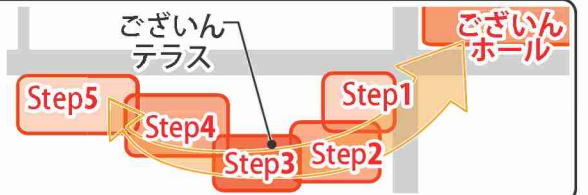


図2 活動の輪がつながる地域と学校

業務の取り組み方針、進め方

1 活動が連続し、まちにつながる中学校をみなさんと一緒につくりまします

- 生徒や町民の様々な交流や発表の場の在り方を考えて魅力的な内外のひろばをつくり、地域づくり・学校づくりに取り組みます。
- 地域住民とのワークショップの経験を生かして、生徒、教職員やPTAなどの学校関係者の様々な意見を集約して設計を進めます。

チームの特徴と全体マネジメントの方針

2 経験豊富な対話重視のチームが要望に適切に応じます

- 宮城県内や東北地方の建築、学校や教育施設をはじめ公共施設を数多く手がける、実績と知識が豊富な設計チームで取り組みます。
- 自治体所有林の伐採から製材加工までのマネジメント実績のある管理技術者、在来工法やハイブリッド木造の設計経験が豊富な構造設計者が担当し、教育施設やまちづくりの専門家との支援体制を構築します。

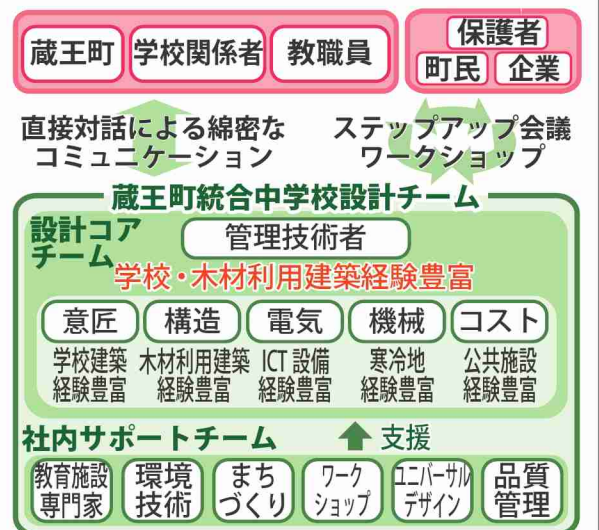


図3 蔵王町統合中学校プロジェクトチーム

スケジュール

3 みんなの想いを「ステップアップ会議」で集め、コスト管理も徹底します

- 基本設計を「設計条件の整理」と「プランニング」の2つに分け、検討期間と決定時期を見える化し、スケジュールを共有しながら、関係者のみなさんとの合意形成を重視し設計を進めます。
- 様々な町民の意見が出しやすくなるようにワークショップ「ステップアップ会議」を学校教育、地域開放、避難施設、などのテーマごとに開催し、地域に親しまれる学校をつくりまします。
- 各設計段階で概算コストを確認するとともに、性能アップ等の要望の際はタイムリーにコストを算出し、採否の判断材料を速やかに提示します。

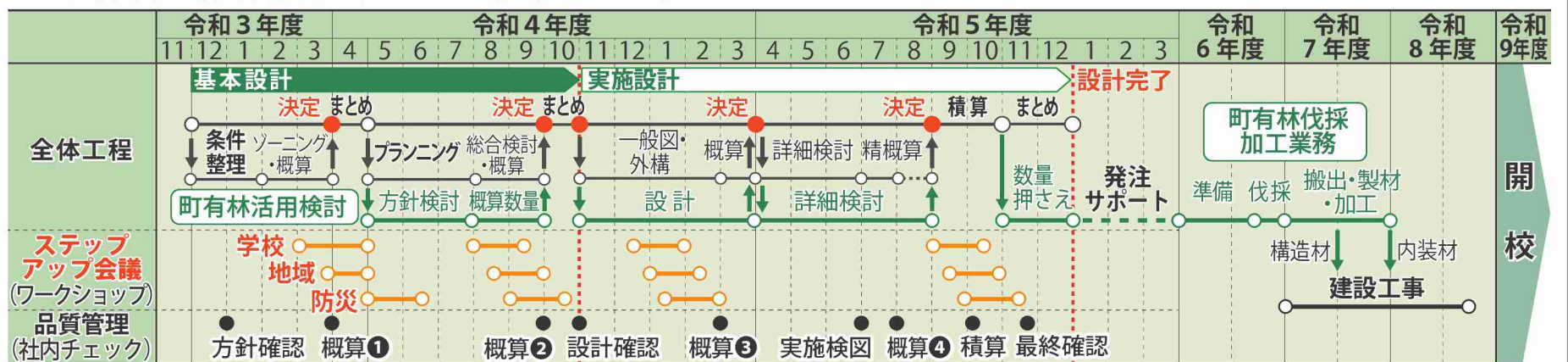


図4 対話・合意形成に重点を置いた設計工程

その他重要と考える事項

4 町産材を活用した木造・木質化の検討と火山泥流対策を行います

- 公共施設での木材利用に関する実績を活かし、町有林からの伐採から製材加工までの計画を支援し、屋根架構・内装・造作家具への最適な利用部位、使用量をコストバランスを考慮の上、ご提案します。
- 万全な火山泥流対策とするため、外壁は堅牢なRC造(鉄筋コンクリート造)とし、想定以上の水深を考慮して造成面より床面を1m高い計画とします。



図5 町産材活用と火山泥流に配慮した災害に強い校舎

『ございんテラス』－屋根のあるひろばで 多彩な活動が生まれ みんながつながる－

まちの中心部につくる統合中学校として未来を担う生徒たちと町民をつなぐ舞台をつくります。

開かれた交流の場となる『ステップひろば』をご提案します。

登下校、部活動、そして仲間との語らいの場となり、蔵王連峰を望む

『ございんテラス』での多彩な活動が統合中学校の新たな未来を育みます。

周辺施設との関係性を考慮した土地利用計画の提案
内外空間の連続性を考慮した土地利用・配置計画の提案

1 地域と学校をつなぐ『ステップひろば』

ございんホールから学校をひと続きにする『ステップひろば』

- Step1 (-4.3m)**
 - 学校の顔となる**エントランス広場**
 - 横断歩道と同じレベルでスムーズにアクセス
 - 駐輪場は段差を活かして駐輪場下のピロティに計画
- Step2 (-2.0m)**
 - 自転車とバスの生徒が毎朝出会う**おはよう広場**
 - 駐輪場とグラウンドの**段差がなく誰でも行き来がしやすい**
 - 部活等でのグラウンド一体利用も可能
- Step3 (±0.0~+1.0m)**
 - 昇降口前の屋根のある広場**『ございんテラス』**
 - 蔵王連峰のパノラマがひろがる**みんなの通学路**
 - 屋根のある**半屋外の活動スペース**として、全生徒の集会や雨の日も屋外活動ができる**みんなのひろば**
- Step4 (メディアステップ)**
 - 昇降口から2階へ続く階段状の**学びのひろば**
 - 学習と発表の中心となる空間
 - 図書室、視聴覚室が**一体のラーニングセンター**
- Step5 (屋内運動場)**
 - 教室や駐輪場からも使いやすい**みんなの大空間**



図 1-1 地域とつながるステップひろば

ございんテラス 雪や暑さから守られた半屋外活動スペース

- 昇降口前の『ございんテラス』は**30m×10mの屋根のあるテラス**。
- 積雪や降雨、また夏の強い日差しから守られた**半屋外空間**は、生徒や町民の活動の機会を増やします。
- 半屋外空間は地域のイベント等、**様々な活動の舞台**となり、町の賑わいを紡ぐ場ともなります。

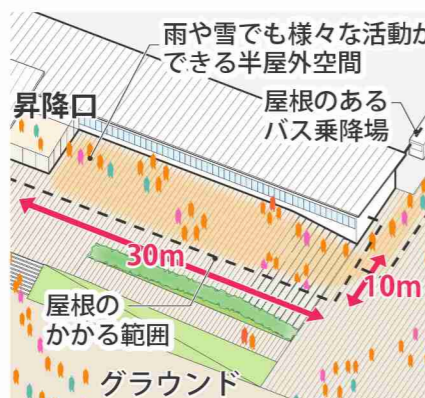


図 1-2 様々な活動の舞台『ございんテラス』

2階建て校舎と北側道路の高低差を活かした土地利用計画

- 校舎を2階建てとし、日常の学習空間を**1階に集約**することで、内外の相互連携がしやすい学校をつくります。
- 自動車、バスの出入口を北側道路の中間地点(-2.0m)とし、**駐車場、グラウンドを同じ高さ(-2.0m)**とすることで、利便性を高めます。

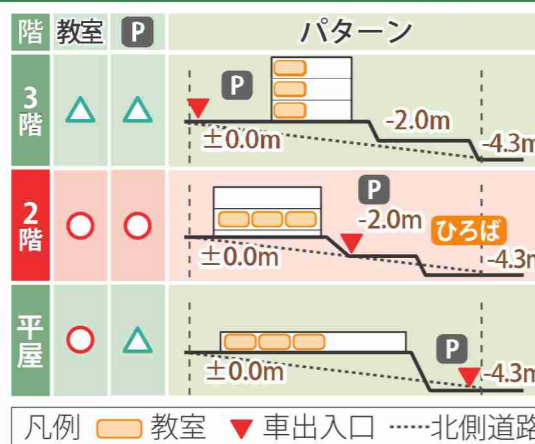


図 1-3 計画地の高低差を活かした土地利用計画の検討

立地条件を考慮し、機能的な土地利用、配置計画の提案

2 高低差・風雪・景観を読み解いた明快な配置・動線

バスも自転車もみんないっしょに顔を合わせて「おはよう」を言える学校

- 高低差を活かした『ステップひろば』と駐車場ゾーンで**歩車分離**を徹底した**安全なアプローチ**。
- 風雪を防ぐ建物配置と**陽当たり**の良い『ございんテラス』で、冬でも快適な屋外活動。



図 1-4 配置計画に対する3つのポイント

図 1-5 安全で機能的な配置計画

内外空間の連続性を考慮した土地利用・配置計画の提案

3 蔵王の山並みと呼応する屋根の連なり

風景をつくる屋根と内外空間と連続するテラス

- 校舎の見える風景
 - 大小の屋根の連なりが山並みと呼応する**新たなまちの風景**をつくる。
- 校舎から見える風景
 - 『ございんテラス』は季節に彩られた蔵王の山並みを望む魅力あふれる場所。
- テラスのある風景
 - 普通教室や特別教室の前には**内外の中間領域**を設け、授業や学級活動で利用。

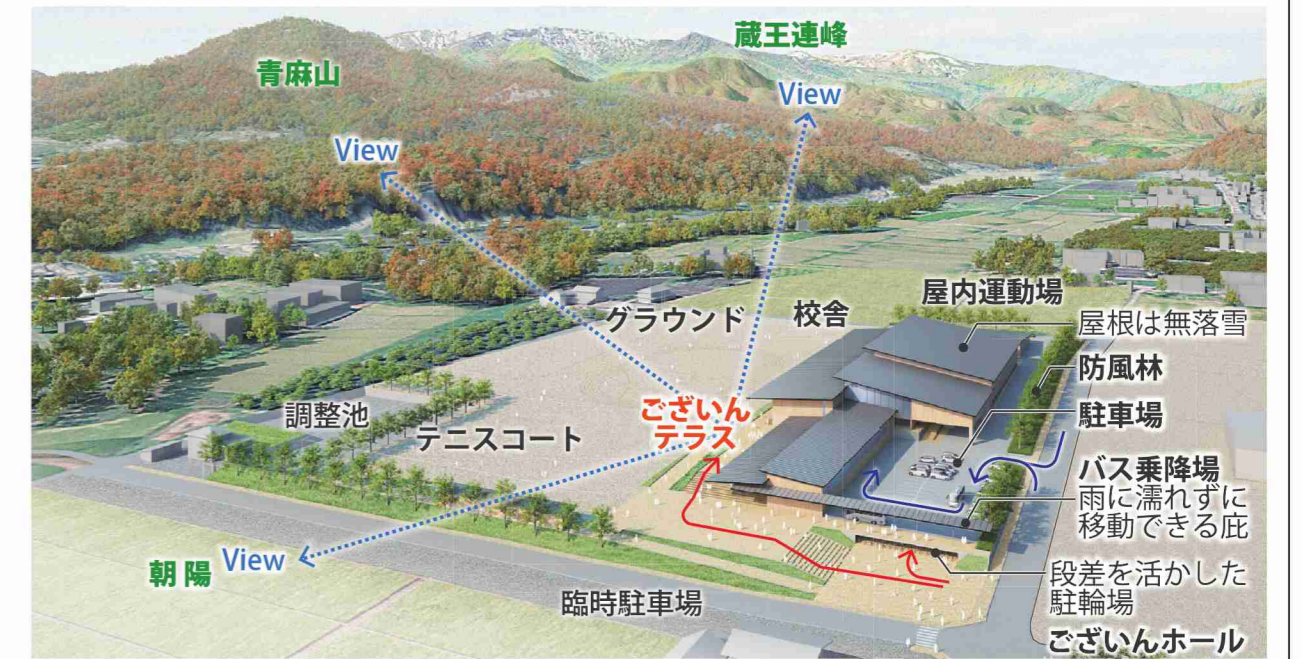


図 1-7 山並みと調和し、新たな景観をつくる統合中学校

給食センターの配置を想定した土地利用計画の提案

給食センター 段差がなく最短でアクセスできる計画

- 普通教室エリアは給食センターからの搬入動線に配慮して、**校舎1階の南西側に配置**します。
- 給食センターと校舎との間の**渡り廊下**を配膳室に直結させるなど、衛生管理に配慮した計画とします。
- 校舎の床高は給食センターのプラットフォームと同じ造成面+1mとし、**段差のない計画**とします。

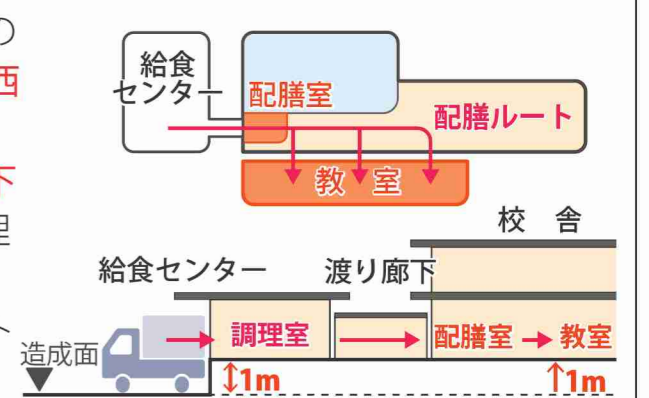


図 1-8 給食センターと段差無しでつながる校舎

『メディアステップ』—多様な学習空間が連なり 学びへの興味が生まれる場—

郷土への愛着を育み、観光のまちとしての国際感覚とコミュニケーション力を培う学びの場が求められています。多様な交流と学びが生まれる『メディアステップ』と、協働・共同を促す『コモンズ』により“学び”と“集団生活”を楽しむ場をつくり、学校全体に活気を生み『グローバル』に活躍できる生徒を育むワクワクする学校をつくりたい。



図2-1 学びと交流の中心となるメディアステップ

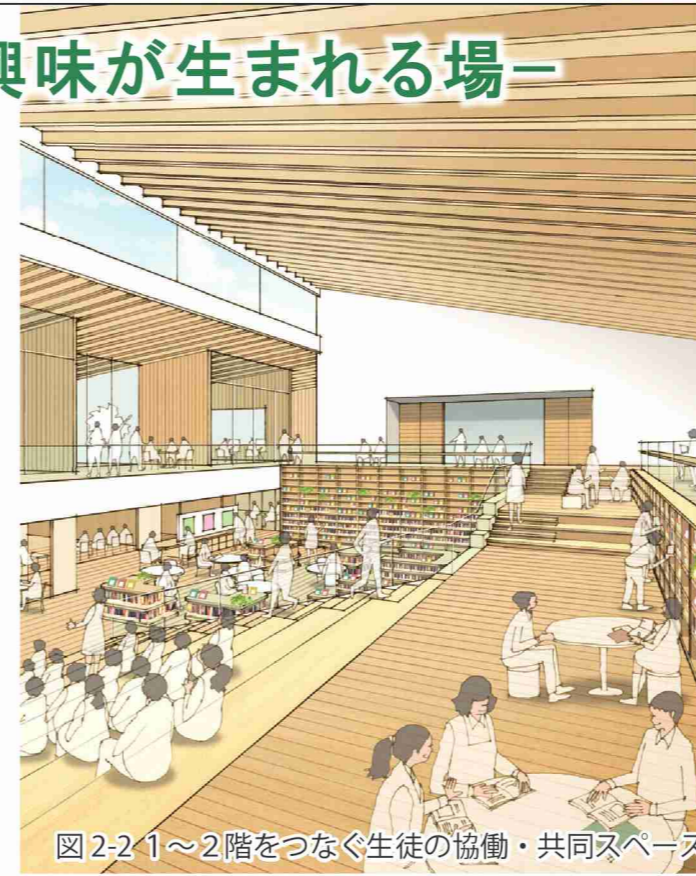


図2-2 1～2階をつなぐ生徒の協働・共同スペース

生徒の生活、活動の場としての学校の提案 これからの中学校建築のあり方を考えた建築計画の提案 ITを活用した学校計画、建築計画の提案 生徒減少に対応した建築計画の提案

1 興味を促し対話が生まれるメディアステップと3つのコモンズ

メディアステップ+コモンズ 移動空間を含めた学校全体が学びの場に

3つのコモンズ (学年コモンズ、教科コモンズ、教職員コモンズ) とそれをつなぐメディアステップで、多様な活動の場が生まれ、移動空間を含めた校舎全体が学習空間となります。

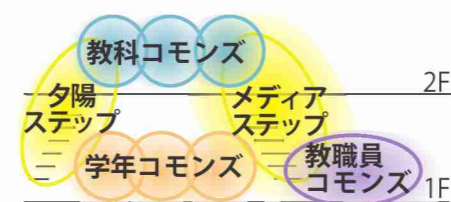
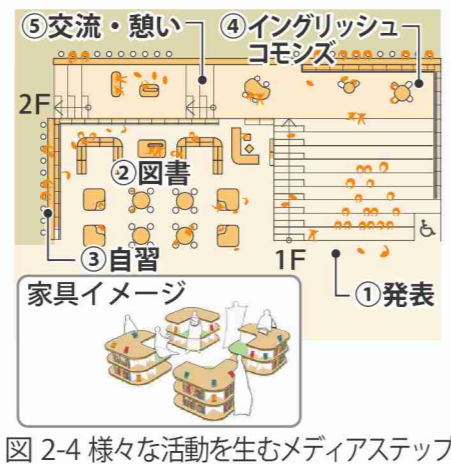


図2-3 2つのステップでつながるコモンズ

メディアステップ コミュニケーション力を磨き表現の場となる舞台

- 大階段 (視聴覚室) 発表や表現の場①としての利用のほか、動線上に設けた何気なく座れるたまりの場④⑤が、生徒たちの多様な交流を育みます。
- 図書エリア 普通教室から使いやすく②気軽に立ち寄りやすい昇降口に近い位置に計画します。
- 自習カウンター 2F 自習席③はカウンター席の落ち着いた自習スペースとなります。
- イングリッシュコモンズ 中2F エリアを中心に英語関連の展示や英会話促進エリア④として計画します。図2-4 様々な活動を生むメディアステップ



学年コモンズ 『S-Pod』と可動壁で多様な学習形態と生徒数の変化に対応

- ストレージ・ポッド『S-Pod』 (掲示・収納・充電・手洗い等の多機能家具) で学年コモンズの領域を緩やかに形成して落ち着いた学習・生活環境を作るとともに、学年を超えた交流の場を作ります。
- コモンズ内はアクティブウォール (黒板付可動壁) によって空間を区切り、映写、掲示が可能な壁面量を確保し、ITを活用した学習に対応します。
- 同時発声に配慮し、天井、壁、家具の吸音面積を増やし、喧噪状態を解消します。

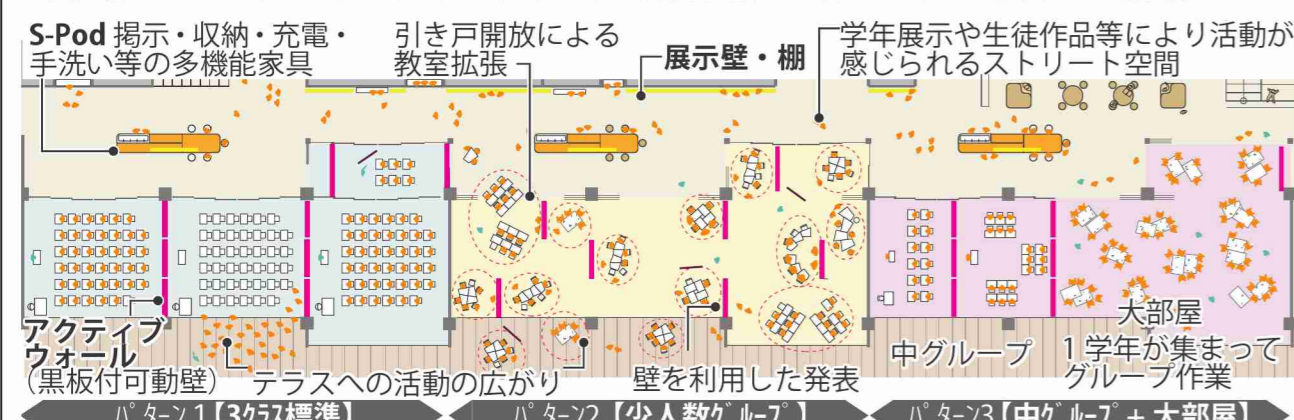


図2-5 学習環境と生徒数の変化に対応できる学年コモンズ

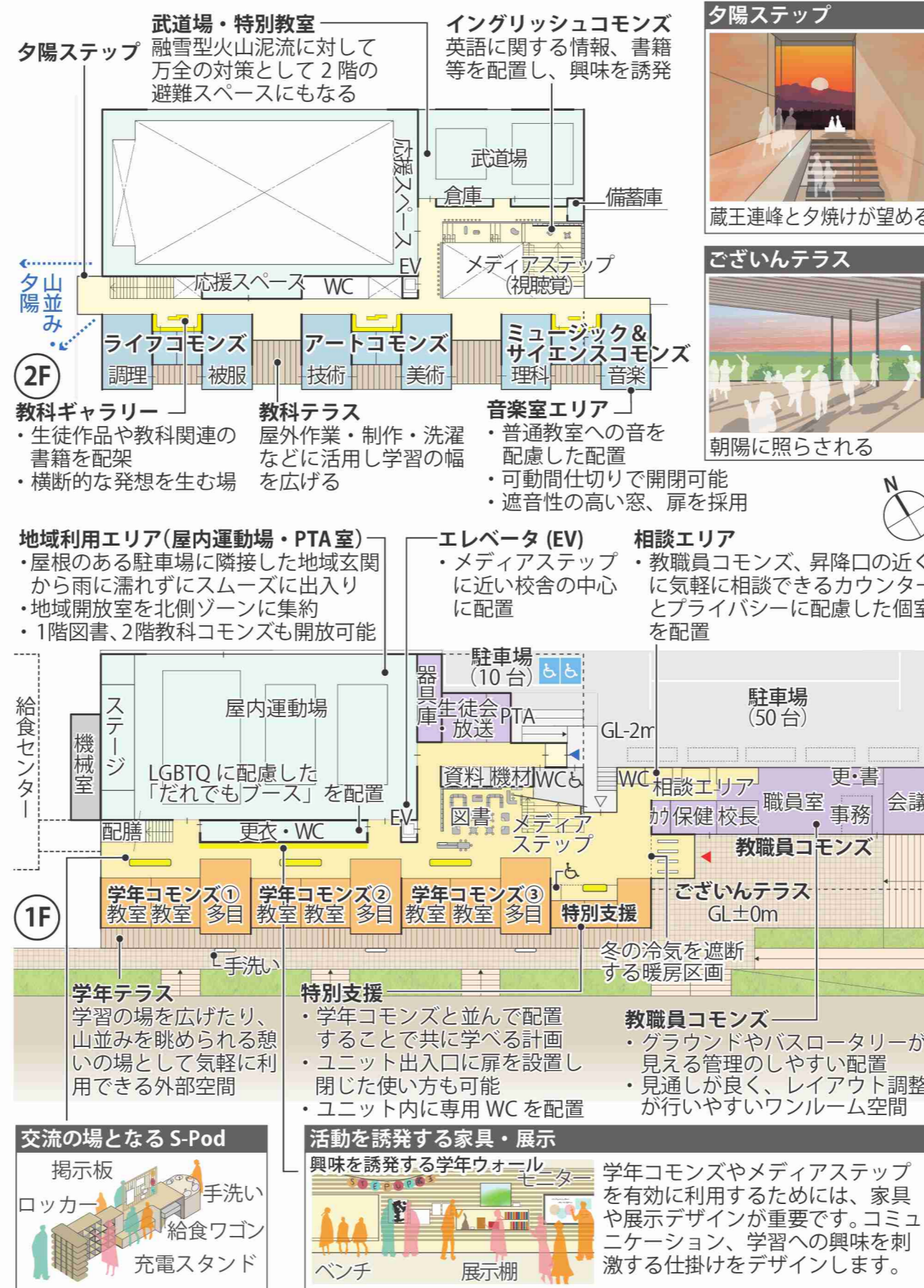


図2-6 学校全体が学びの場となる平面計画

2 学びが広がる・協働が生まれる 快適な学習空間

教科コモンズ 興味を引き出し学びの幅を広げる特別教室

- 教科ギャラリー・準備室・教科テラスを連結し、教科の垣根を超えた多様性を生む3つの学びの場をつくりたい。
- 教科ギャラリー 教室間に設ける、教科の枠を超えた横断的な発想を生む場となります。
- 教科テラス 理科の実験、技術・美術の制作や被服の洗濯など実践的な学習が可能です。
- 準備室 2室の間に設け、可動収納とすることで収納量に応じ調整が容易な計画とします。

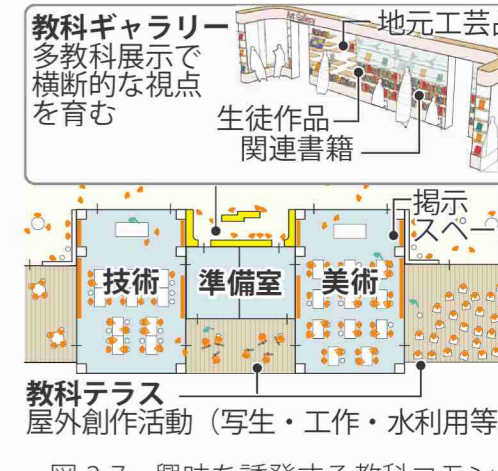


図2-7 興味を誘発する教科コモンズ

教職員コモンズ 教職員のチーム力を高めるワンルームのワークスペース

- 間仕切り壁は最小に留め、活動が見えることで教職員間の情報交換や交流を促します。
- 職員室手前にカウンターや相談ブースを設け、生徒や保護者が訪れやすい設えとします。
- カウンターで緩やかな管理区画をつくりたい。
- グラウンド、ひろば、駐車場へ見通しを確保し、管理しやすい計画とします。

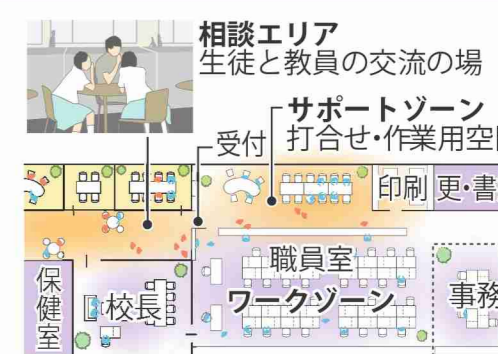


図2-8 ワンルームの教職員コモンズ

脱炭素エコ・ウェルネススクール 五感に訴える校舎そのものが環境教材

- 勾配屋根の南側上部に高窓を設け、気候の良い時期は北北西の卓越風による風力+誘引換気で校舎全体に外気を導き、室内空気質を高め感染症を防止します。
- 高天井のメディアステップは天井扇と、床段差からの温風吹き出しにより、暖房効率を高め、空調費用を抑えながら快適な温熱環境を実現します。
- 年間を通して安定している地中温度を利用したアースチューブで外気を予熱(冬)、予冷(夏)し、夏期、冬期とも省エネルギーに十分な換気量を確保します。
- 町産材を活用して屋根架構や内装・家具を木質化し、CO2の吸着による環境貢献と同時に、温もりを感じられる学習空間をつくりたい。

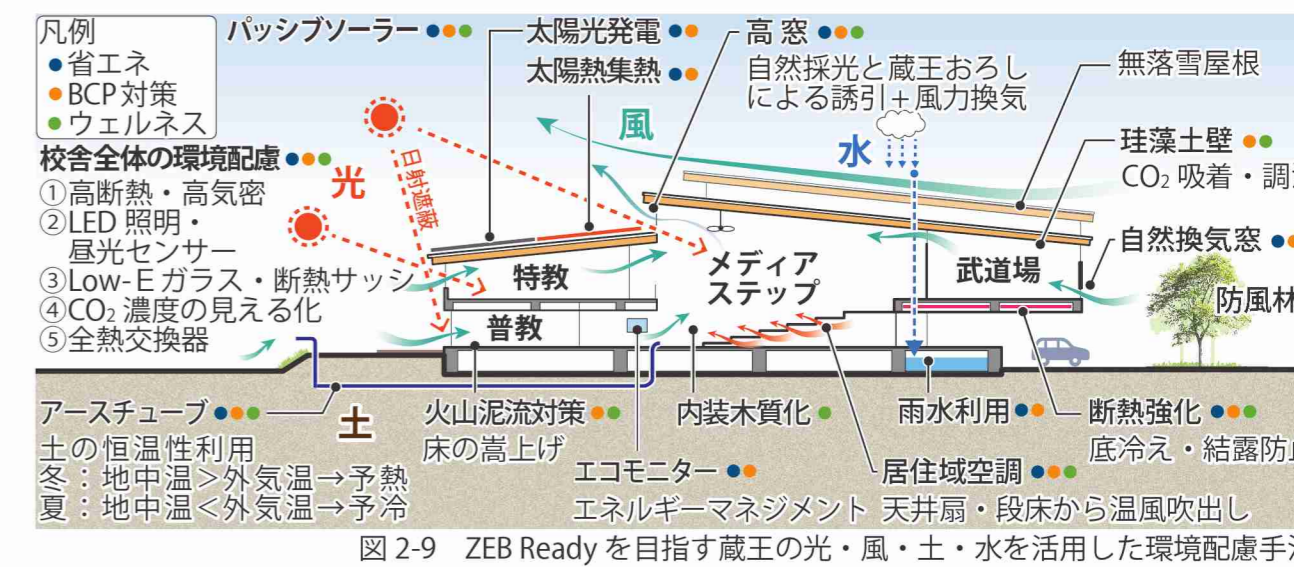


図2-9 ZEB Readyを目指す蔵王の光・風・土・水を活用した環境配慮手法

3 学校が地域に溶け込み地域が学校を支える『みんなの学校』

地域利用ゾーン 社会教育施設として拡張を見据えた管理区画

- 一般開放と共に、災害時に避難が長期化した際も学校運営に支障ない明確な管理区画とします。
- 1階図書室部分を区画するだけで2階特別教室や武道場も開放可能となります。
- 屋内運動場近傍にPTA室や資料室を設け、地域住民が学校運営に関わりやすい計画とします。

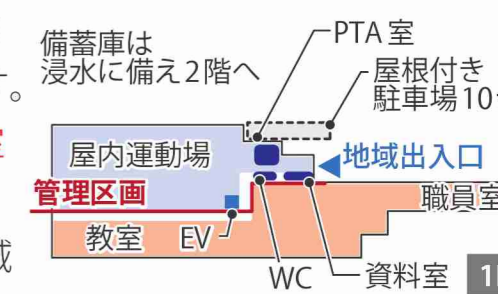


図2-10 将来の変化に対応する管理区画計画